

製品安全データシート

整理番号
作成日

1. 化学物質等及び会社情報

製品名: ペットネーム	MB066
製品名: 登録名	くみあい粒状固形肥料066
会社名	全国農業協同組合連合会
担当部門	肥料農薬部
住所	東京都千代田区大手町一丁目1-3-1 JAビル33F
電話番号	03-6271-8285
FAX番号	03-5218-2536
e-mail	ZZ_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp
緊急連絡先	03-6271-8286

推奨用途及び使用上の制限 肥料用及び肥料原料用。肥料用途以外には使用しない

2. 危険有害性の要約

GHS分類区分

物理化学的危険性	可燃性固体 区分外 自然発火性固体 区分外 自己発熱性化学品 区分外 酸化性固体 区分外
健康有害性	皮膚腐食性・刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 I 特定標的臓器毒性(単回暴露) 区 上記で記載がない危険有害性は、ない。

GHSラベル要素



注意喚起語 危険有害性情報	危険 皮膚刺激 重篤な眼の損傷 呼吸器への刺激のおそれ
注意書き 安全対策	粉じん、ヒュームの吸入を避けること。 保護手袋を着用すること。 保護眼鏡、保護面を着用すること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使
救急措置	吸入した場合、新鮮な空気のある場 すい姿勢で休息させること。 皮膚に付着した場合、多量の水と石

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、
 タクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
 その後も洗浄を続けること。
 直ちに医師に連絡すること。
 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断と。
 気分が悪い時は、医師の手当て、汚染された衣類を脱ぎ、再使用すること。
 特別な措置が必要である。
 施錠して保管すること。
 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
 内容物、容器を都道府県知事の許可した廃棄物処理業者に業務委託すること。

保管
 廃棄

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別別名

混合物

化学名又は一般名(原料)	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
ほう酸塩肥料	0.42%	B ₂ O ₃	(1)-69	
硫酸アンモニウム	39.27%	(NH ₄) ₂ SO ₄	(1)-400	
リン酸アンモニウム	13.25%	(NH ₄) ₂ HPO ₄	(1)-379	
過リン酸石灰	3.15%	特定できない	不明	
塩化カリウム	10.83%	KCl	(1)-228	
水酸化苦土肥料	2.24%	Mg(OH) ₂	(1)-386	
シリカヒューム	1.00%	SiO ₂	(1)-548	
泥炭	30.84%	特定できない	不明	

*)濃度は代表値を記載。

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に搬送し、安静に休息させること。

皮膚に付着した場合

気分が悪いときには医師に連絡すること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用すること。

皮膚を速やかに洗浄すること。多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断と。

眼に入った場合

気分が悪い時は、医師の手当て、汚染された衣類を再使用する場合、直ちに医師に連絡すること。水で数分間注意深く洗うこと。次に、容易に外せる場合は外すこと。

飲み込んだ場合

気分が悪い時は、医師の手当て、嘔吐を促すこと。気分が悪い時は、医師の手当て、

5. 火災時の措置

消火剤

特有の危険有害性

特有の消火方法

消火を行う者の保護

この製品自体は、燃焼しない。
周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。
吸入すると有害となるおそれがある
接触により皮膚や眼に炎症を起こす
火災時に刺激性、腐食性及び/又は
おそれがある。(アンモニアガスの多
危険でなければ火災区域から容器を
避難して安全な距離から消火するこ
解して重度毒性蒸気又は分解生成
る。(アンモニアガスの発生)
消火作業の際は、空気呼吸器、化

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

環境に対する注意事項

回収、中和、封じ込め及び浄化の方法・機材

二次災害の防止策

作業者は適切な保護具(8. 暴露防
の項を参照)を着用し、眼、皮膚へ
る。
直ちに、全ての方向に適切な距離を
る。
関係者以外は近づけない。
漏洩しても火災が発生していない場
浸透性の保護衣を着用する。
風上に留まる。
低地から離れる。
立ち入る前に、密閉された場所を換
河川等に排出され、環境へ影響を
る。
環境中に放出してはならない。
多量に漏出した場合、閉鎖系水域
たらず。
漏洩物を掃き集めて密閉できる空
処理する。
残留物は乾燥した土、砂で覆い、密
する。
危険でなければ漏れを止める。
すべての発火源を速やかに取除く(
火炎の禁止)。
床面に残るとすべる危険性がある
る。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

局所排気・全体換気

安全取扱い注意事項

『8. 暴露防止及び保護措置』に記載
保護具を着用する。
『8. 暴露防止及び保護措置』に記載
気を行う。
周辺での高温物、スパーク、火気の
接触、吸入又は飲み込まないこと。
空気中の濃度を暴露限度以下に保
を行うこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使
この製品を使用する時に、飲食又は

接触回避
衛生対策

『10. 安定性及び反応性』を参照。
取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

技術的対策	保管場所には、貯蔵し又は取り扱う明及び換気の設備を設ける。
混触禁止物質 保管条件	『10. 安定性及び反応性』を参照。 熱、火花、裸火のような着火源から煙。 酸化剤から離して保管する。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 施錠して保管すること。
容器包装材料	容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 包装、容器の規制はないが一度開封した開封品を保管しない。固結の原因と

8. 暴露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(暴露限界値、生物)	
		日本産衛学会 勧告値	
ほう酸塩肥料	未設定	未設定	未設定
硫酸アンモニウム	未設定	未設定	未設定
燐酸アンモニウム	未設定	未設定	未設定
過燐酸石灰	未設定	未設定	未設定
塩化カリウム	未設定	未設定	未設定
水酸化苦土肥料	未設定	未設定	未設定
シリカヒューム	未設定	吸入性粉塵 2mg/m ³ 総粉塵 8mg/m ³	不明
泥炭	未設定	未設定	未設定

設備対策

防爆の電気・換気・照明機器を使用
本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には
クーラーを設置すること。
工程で粉じんが発生するときは、空
度・許容濃度以下に保つために換気

保護具

呼吸器の保護具

換気が不十分な場合には、適当な
ること。
保護手袋を着用すること。
保護眼鏡を着用すること。
上着は長袖が好ましい。

手の保護具
眼の保護具
皮膚及び身体の保護
具

9. 物理的及び化学的性質

外観	物理的状态	固体
	形状	粒状
	色	灰色
臭い		肥料臭
pH		データなし
融点・凝固点		データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲		データなし
引火点		不燃性
燃焼又は爆発範囲	下限	不燃性
	上限	不燃性
蒸気圧		データなし
蒸気密度(空気=1)		データなし
比重(密度)		データなし
溶解度		水に可溶
n-オクタノール／水分配係数		データなし
自然発火温度		不燃性
分解温度		データなし
臭いのしきい(閾)値		データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)		データなし

燃焼性(固体、ガス)		データなし
粘度		該当しない
動粘性率		該当しない
10. 安定性及び反応性		
反応性		情報なし
化学的安定性		通常の条件においては安定である。
危険有害反応可能性		加熱すると、激しく燃焼または爆発。
避けるべき条件		加熱、高温の物体、裸火。
混触危険物質		情報なし
危険有害な分解生成物		燃焼により、有害な窒素酸化物のガ
11. 有害性情報		
急性毒性	経口	データ不足のため分類できない。
	経皮	データ不足のため分類できない。
	吸入(蒸気)	データがなく分類できない。
	吸入(粉じん)	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		硫酸アンモニウム、リン酸アンモニウ 成分濃度の合計が濃度限界(10%)以 「皮膚刺激」に該当する。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		硫酸アンモニウムが区分1、成分濃 (3%)以上のため、GHS:区分1「重篤な る。
呼吸器感作性		データがなく分類できない。
皮膚感作性		データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性		データ不足のため分類できない。
発がん性		データがなく分類できない。
生殖毒性		データがなく分類できない。
特定標的臓器毒性(単回暴露)		硫酸アンモニウム、リン酸アンモニウ 性)で、成分濃度合計が濃度限界(2 区分3(気道刺激性)「呼吸器への刺 る。(区分3(気道刺激性)と判定する いていない。)
特定標的臓器毒性(反復暴露)		データがなく分類できない。
吸引性呼吸器有害性		データがなく分類できない。
12. 環境影響情報		
水生環境有害性(急性有害性)		データ不足のため分類できない。
水生環境有害性(長期間有害性)		データ不足のため分類できない。
オゾン層への有害性		モントリオール議定書の附属書に列 物質を含まないため分類されない。
13. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		廃棄においては、関連法規並びに うこと。 都道府県知事などの許可を受けた もしくは地方公共団体がその処理を こに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理 害性を充分告知の上処理を委託す 容器は清浄してリサイクルするか、 治体の基準に従って適切な処分を 空容器を廃棄する場合は、内容物を
汚染容器及び包装		
14. 輸送上の注意		
国際規則	海上規制情報 航空規制情報	非危険物 非危険物
国内規制	陸上規制 海上規制情報 航空規制情報	非該当 非危険物 非危険物

特別の安全対策	輸送の前に容器の破損、腐食、漏れる。 輸送に際しては、直射日光を避け、れを生じないように積み込み、荷崩う。 重量物を上積みしない。 なし
緊急時応急措置指針番号	
15. 適用法令	
水質汚濁防止法	有害物質(法第2条、施行令第2条、第1条)(ほう素及びその化合物、ア化合物)
土壌汚染対策法	特定有害物質(法第2条第1項、施行その化合物)
肥料取締法	第四条 農林水産大臣または都道府の肥料。但し農林水産令で定めるもこの限りではない。
16. その他の情報	
連絡先	朝日肥糧株式会社
参考文献	NITE GHS分類公表データ CHEMWATCH社 GHS-SDS RTECS(2006-2010) 社内データ 記載内容は、一般に入手可能な情いて作成しておりますが、現時点に関する全ての情報が検討されていで、いかなる保証をなすものではない、通常の取り扱いを対象としたもり扱いの場合には、この点のご配慮

本SDSは、下記朝日肥糧株式会社の情報を元に作成しました。
該当物質については、下記にお問合せください。

会社名	朝日肥糧株式会社
連絡先	生産技術部
住所	香川県高松市朝日町四丁目11番1号
電話番号	087-851-8907
緊急時の電話番号	087-851-8907
FAX番号	087-851-4188

asahiryoyou(kagawa)-6
2013年11月22日

いでください。

区分1
分3(気道刺激性)
分類対象外か分類でき

と。

用すること。

所に移動し、呼吸しや

酸で洗うこと。

よく洗うこと。次に、コン
トせる場合は外すこと。

断、手当てを受けるこ

断を受けること。
場場合には洗濯するこ

呆管すること。
可を受けた専門の廃棄

CAS番号
1303-96-4
7783-20-2
7783-28-0
不明
7447-40-7
1309-42-8
7631-86-9
不明

移動し、呼吸しやすい姿

ること。
場場合には洗濯するこ

断、手当てを受けるこ

断を受けること。
こは洗濯すること。

、コンタクトレンズを着用
こと。その後も洗浄を続

断を受けること。

断を受けること。

用いる。

「おそれがある。
毒性のガスを発生する
(発生)
を移動する。
こと。熱に晒されると、分
物を放出することがあ

専用保護衣を着用す

止措置及び保護措置
の接触や吸入を避け

を漏洩区域として隔離す

場合、密閉性の高い、不

気する。
こさないように注意す

で、水質の富栄養化をも

容器に回収し、後で廃棄

閉できる空容器に回収

近傍での喫煙、火花や

ため、こまめに処理す

載の設備対策を行い、

載の局所排気、全体換

使用を禁止する。

：つために排気用の換気

用すること。
喫煙をしないこと。

ための必要な採光、照

離して保管すること。禁

こと。

保管すること。
封したものは使い切り、
になる。

科学的暴露指標)
ACGIH

すること。
こは洗眼器と安全シャ

気汚染物質を管理濃
気装置を設置する。

呼吸器保護具を着用す

することがある。

ガスを発生する。

ムが区分2で、区分2の
以上のため、GHS:区分2

度の合計が濃度限界
「眼の損傷」に該当す

ム、が区分3(気道刺激
0%)以上のため、GHS:
「刺激のおそれ」に該当す
に専門家の意見を聞

記載されたオゾン層破壊

也方自治体の基準に従

産業廃棄物処理業者、
を行っている場合にはそ

理業者等に危険性、有
る。
関連法規並びに地方自
行う。
を完全に除去すること。

1等のないことを確かめ

容器の破損、腐食、漏
れの防止を確実に

排水基準を定める省令
アンモニア、アンモニウム

令第1条)(ほう素及び

府県知事の登録を受け
る(指定配合肥料)は

報及び自社情報に基づ
おける化学又は技術に
るわけではありませんの
りません。又、注意事項
のであります。特殊な取
扱をお願いします。
